2025 年度（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

事　業　報　告

一般社団法人環境DNA学会

1. 学術大会の開催（大会実行委員）

第8回環境DNA学会山口大会を実施した。

1）期日：2025年12月10日（水）～12月13日（土）

2）場所：KDDI維新ホール（山口市）

3）参加者：249名

環境DNA学会：学会員：　218名　非会員：　31名

4）講演数：公開シンポジウム、企画集会 2件、自由集会　2件、協賛セミナー　1件、ポスター発表　96件（学会員 90件、高校生　6件）

5）協賛：プラチナ　3社、ゴールド　１社、ブロンズ　5社

展示：17社

＊なお、大会報告については環境DNA学会ニュースレターNo.8にて掲載済。

2. 技術セミナーの開催（事業委員会）

環境 DNA 技術の普及と発展を目的とし、技術セミナーをオンライン（ウェビナー）形式で開催した。環境 DNA 技術のうち、注目されてきているサンプリング方法として、重力濾過とパッシブサンプリングについて講師からその手法と、課題、留意点について丁寧に解説いただく情報提供を行った後、質疑応答と討議を行った。また実務者向けに CPD 技術者継続教育の修了書を発行した。

2025 年度技術セミナー

開催日：2026 年 5 月 18 日 13:00-15:00（Zoom ウェビナーオンライン）

講師：岡 慎一郎（一般財団法人沖縄美ら島財団　総合研究所）

　　中尾　遼平（山口大学 大学院創成科学研究科）

オーガナイザー：土居 秀幸（京都大学）

参加：139名（うち一般 90名、学生 9名、賛助 40名）

3. 環境DNA調査・実験マニュアル改訂版の公開（標準化委員会）

環境DNA技術標準化委員会におけるマニュアル改訂メンバー6名（源、土居、山川、山中、高原、中村匡、村岡）が中心となって改訂版を作成し、2026年5月1日に最新版であるVer. 3.1を発行した。

4. ISOの策定について

ISO/TC 147/SC 5/WG 13で環境DNAに関わるISOの審議が進行中である。学会からは、荒木、近藤、土居、源、村岡、山中の理事6名を含む8名が本WGのエキスパートとして審議に参加している。2023年9月以降審議されていたISO 17805:2026 Sampling, capture and preservation of environmental DNA from water が2026年7月に発行された(Stage※ 60.60)。また、新たに、SO/AWI 26488 Extraction of aquatic environmental DNA (eDNA) from filters（Stage20.00）、ISO/AWI 26532 Specifications for targeted amplification of environmental DNA/RNA samples through PCR（Stage 20.00）の2件の審議が始まった。この2件の素案は国際的なタスクフォースiESTF（International eDNA Standardization Task Force）において議論されてきた。また、現在Metabarcoding to survey biological communitiesのISOに向けた議論が進行中である。これらiESTFの活動には、学会理事5名が参加している。

※　ISOの進捗段階を示す指標

Stage 60.60: International Standard published

Stage 20.00: New project registered in TC/SC work program

5. Southern eDNA Societyとの連携

Southern eDNA SocietyとMoUを締結すべく、議論を継続している。昨年度終わりまでにMoU文案についての当方からの改訂案を先方に送付しており、現在、返答待ちである。最終文案が両者で確認されれば、それぞれ学会としての承認を進め、締結のためのサインへと移る予定である。

6. 広報活動（広報委員会）

1）ニュースレターの発行

環境DNA 学会の活動報告と情報共有を目的とし、2026年5月に第8号となるニュースレター（日本語版30ページ、英語版33ページ）を学会員向けに発行した。主な内容は学会長挨拶、第8回環境DNA学会山口大会開催報告、環境DNA研究最前線、環境DNAによるエピゲノム解析の紹介、ご寄付の報告、編集あとがきである。また、環境DNA技術の普及・次世代のエンカレッジを目的として、発表賞受賞校にニュースレターを冊子体にして発送した。

2）学会ウェブサイトおよびSNS（X）の運用

学会大会開催情報をはじめとした学会活動に関連する事項について随時記事を掲載し、国内外に向けた情報発信を行なった。

7. ISO 国内審議 WG の設立（渉外担当理事）

環境 DNA に関する ISO 案に対し、国内関係者からの意見照会を可能ならしめるよう、2026.4.15 に環境 DNA 学会内に、ISOTC147/SC5/WG13 のワーキンググループを設立した。省庁ラウンドテーブルにて、農林水産省、水産庁、経済産業省、国土交通省、環境省に WG を説明、8 月に学会全賛助会員あてに WG の委員希望調査を実施。経済産業省国際基準課への調整などを経て、国

内審議 WG　委員・オブザーバー（関係者）が確定した（別紙参照）。任期は 2026 年 10 月 1 日～2028 年 3 月 31 日。

8. 環境 DNA に関わる省庁間連携のためのラウンドテーブル（渉外担当理事・標準化委員会）

様々な分野で環境 DNA 技術の利活用が進む中で今後の調査手法の標準化やデータ共有、国際標準化など関係機関の連携が求められる項目について、環境 DNA 学会と関係行政機関との意見交換や情報共有を行う場として 2019 年から実施しており、今回が 9 回目となる。

日　時：2026 年 7 月 31 日 13:15～15:00

場　所：農研機構　新橋事業場　（WEB 併用）

環境 DNA 学会から、源、近藤、土居、村岡が参加。関係省庁（農林水産省、水産庁、経済産業省、国土交通省、環境省）から 23 名、国立研究機関（科学警察研究所、農研機構、水研機構、産総研、港湾空港技術研究所、土木研究所、国立環境研究所）から 20 名が参加。

9. 環境DNA分析精度管理WGへの参加（標準化委員会）

2026 年 6 月　一般社団法人日本環境測定分析協会と環境 DNA 学会との間で、環境 DNA 分析精度管理 WG に関する覚書を締結。環境 DNA 学会より 4 名の理事が本 WG に委員として参加（源、山中、荒木、村岡）。

2026 年 7 月 8 日　　第 1 回分析精度管理 WG ＠日環協（東京）

2026 年 8 月 31 日　　第 2 回分析精度管理 WG＠日環協（東京）

10. 代議員会、理事会、その他

1）理事会

2025年12月10日　定時理事会（於：KDDI維新ホール・Zoomオンライン）理事17名、監事2 名

2026年4月15日　第1回臨時理事会（Zoom によるオンライン）理事15名、監事2 名

2）代議員会

2025年12月10日　定時代議員会（於：KDDI維新ホール・Zoomオンライン）代議員10名　オブザーバー　2名

3）その他

2026年7月6日-8月5日　代表理事選挙・代議員選挙

11. 事業計画および収支予算書

2025年12月10日開催の理事会において、2025年度事業計画および収支予算書を承認した。

12. 会員動向

会員種別	2024年度末	2025年度末	増減	備考
正会員（一般）	232名	233名	＋1名	新規　51名 更新 182名
正会員（学生）	56名	51名	-5名	新規 28名 更新 23名
賛助会員	36団体	38団体	＋2団体	新規 3団体 更新 35団体

13. 事業報告の内容を補足する重要な事項

特になし。

以上